

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2012 年 10 月 21 日

派遣者氏名（専門分野）	林 葉子 （ 女性史 ）
-------------	--------------

派遣期間	2012 年 7 月 20 日 ～ 2012 年 9 月 20 日
------	-----------------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
イギリス	ロンドン	The British Library

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法等を記入）

本図書館で資料を閲覧するには、最初に、Reader Pass を取得する必要がある。本図書館には、この Reader Pass の発行のための専用の部屋があり、まずはその部屋の受付で、Reader Pass を取得したい旨、伝え、身分証の提示を求められる。パスポート等の他にも、住所確認用の証明書が必要で、その住所の記載が手書きのもの（健康保険証など）を証明書として認めるかどうかという点については、受付の人たちの考え方が、それぞれに異なるようであった。派遣者の場合は健康保険証が「住所確認の証明書」として認められることになったが、住所確認の証明書は、住所が記載されている部分が手書きではなく、印字されたものを用意しておくことと確実である。

その後、図書館の日本人スタッフから、受付で、研究者用の Reader Pass（更新までの期間が長く、3年間使用できるもの）の発行の基準についての説明を受けた。その説明によれば、研究者であることの証明として、大学の職員証や大学発行の書類、あるいは大学の専任教員による推薦の手紙等を持っていれば、スムーズに研究者用の Reader Pass を取得できるとのことであった。

研究者用の Reader Pass が発行されるか否かは、最終的に、面接（英語）を経て決定される。また、The British Library の閲覧室は分野ごとに分かれているので、どの閲覧室を使うのが適当かということも、この面接の中で助言される。そのため、事前に図書館で調べたい資料のリストを印刷して持って行っていたことが、この面接の時に役に立った。派遣者は、研究者用の Reader Pass を取得し、「社会科学」の閲覧室を利用するようとの助言を受けた。

閲覧室に入る前には、ロッカーに荷物を預ける必要がある。閲覧室に持ち込みたいものは、（図書館内で得ることができる）透明な袋の中に入れて持って行く。閲覧室に入る際には Reader Pass を提示し、閲覧室から出るときには、透明な袋の中の検査を受ける。閲覧室内では、ペンの使用は不可、鉛筆は使用可である。ノートパソコンの持ち込みは可能であるが、カメラは使用できない。コピー機の使用の際は、資料の保護のため、片面ずつコピーする決まりである。

「社会科学」の閲覧室の場合、常に人が多く、閲覧用の机を確保できないことがあったが、その場合は「科学」の閲覧室の机を使って資料を閲覧することができた。資料請求は、インターネットの検索ページから行うか、閲覧室にある専用の用紙を使って行う。請求した資料が閲覧室に到着するまで2日くらいかかる場合があるので、時間の余裕をもって、計画的に調査を進める必要がある。